

# 「誰も取り残されない医療」を目指して

2018年12月4日（火）18:30 – 20:00 於：スクワール麹町

12月12日は国連によって国際UHCデーと定められています。

UHC（ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ）は「すべての人が適切な予防、治療、リハビリ等の保健医療サービスを必要な時に支払可能な費用で受けられる状態」を指しています。これは全ての人々が健康になること、「誰も残されない医療」を目指すことです。

日本では、世界最高水準の健康を享受できるようになった一方で、少子高齢化等の影響により数多くの課題にも直面しています。UHCに掲げられた「誰も取り残されない医療」を日本でも達成していくためにはどのような課題があるのでしょうか。

本イベントでは日本の保健、世界の保健に関わる専門家を招いて「誰も取り残されない医療」の現在、そしてこれからについて語っていただきます。医療を取り巻く社会の変化も激しい今、日本の、そして世界のUHCはどのような姿になるのでしょうか。

## プログラム

<日英同時通訳あり>

オープニング：18:30 – 19:00

はじめに：渋谷 健司氏

（東京大学医学系大学院国際保健政策学教室教授、国立国際医療研究センターiGHPセンター長）

来賓挨拶：池田 千絵子氏（厚生労働省大臣官房総括審議官（国際保健担当））

基調講演：“The vision for world where we can promote health for all.”

**Dr. Suwit Wibulpolprasert**, Vice Chair, International Health Policy Program Foundation,  
Health Intervention and Technology Assessment, Thailand

第一部：19:00 – 19:30 カントリープレゼンテーション

誰も取り残されない医療を達成するためには何が必要か – 各国の経験から –

- 中国：Dr. Kun Tang, Department of Global Health, Peking University School of Public Health, China
- 日本：高山義浩氏, 沖縄県立中部病院 地域ケア科 医長

第二部：19:30 – 20:00 パネルディスカッション

誰も取り残されない医療を実現するための鍵 – あるべきヘルスケアの姿 –

進行：宮田裕章氏 国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター  
グローバルヘルスシステム・イノベーション研究科長

パネリスト：

- Dr. Supakit Sirilak, Deputy Permanent Secretary, Ministry of Public Health, Thailand
- Dr. Kun Tang, Assistant Professor, Department of Global Health, Peking University School of Public Health
- 高山義浩氏, 沖縄県立中部病院 地域ケア科 医長
- 戸邊 誠氏, 国際協力機構(JICA) 国際協力専門員
- 柏倉美保子氏, ビル&メリンダ・ゲイツ財団, 日本代表

主催：東京大学大学院国際保健政策学教室(GHP)

国立国際医療研究センター国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター (iGHP)

後援：国際協力機構 (JICA)

本イベントは厚生労働省科学研究費補助金事業の一環として行われます

